

日程第2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

6月17日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

4番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、地方創生の取り組みに向けた観光振興対策と体制について

系魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標を「勝ち行く」とし、交流人口の拡大の中で、「世界・国内への情報発信」、「受け入れ態勢の整備」の項目を掲げています。

重要業績評価指標KPIでは、観光入込客数、外国人宿泊者数の目標値を設定し、具体的には目標年度を平成31年度とし、主に16事業により取り組みを開始しています。

新幹線開業から1年、観光関係の主要施設への入込客数の伸びはあるものの、今年2月の市内企業の景況アンケートの新幹線開業後の効果では、多くの業種で期待どおりとはいかず、かなり厳しい受けとめ方がされています。

地方創生での重要業績評価指標KPIの目標値達成はもとより、地域資源の活用や新幹線開業などの利点を最大限生かし、集客力を高める取り組みのためには、従来の取り組みの手法だけでは期待できないと考えており、地方創生の取り組みに向けた観光振興対策と体制について、5点について新たな視点での取り組みに期待し伺います。

(1) ジオパーク戦略プランの成果とプラン終了後の取り組みについて

ジオパーク戦略プランの目標年度は平成27年度であったが、その成果として目標値、経済効果などの達成度はいかがか。また、ジオパーク戦略プロジェクトは28年度も継続であるが、今後、ジオパーク事業はどのような位置づけと進め方を考えているのか伺います。

(2) インバウンド観光の現状と取り組みについて

昨年は訪日外国人旅行者が約2千万人、消費額が3兆4,771億円となり、上越地域でも平成26年度は外国人宿泊者が3万人を超え、前年対比40%の伸びを示しており、市でもインバウンド新時代に向けた国の戦略的取り組みに合わせた取組が求められているが、その進め方を伺います。

(3) 系魚川版DMOの取組について

観光のスタイルが団体型から個人型に変化する中で、地域には顧客視点に立った、地域が自ら商品を開発し観光客を集客してもてなす「着地型」の取り組みが求められており、地域

が主体になって行う観光地域づくりの推進主体としての糸魚川版DMOの取り組みについて伺います。

(4) 観光協会と市との関わり、組織のあり方や方向性について

地域間の観光客の獲得競争が激しくなる中、各地で改革に乗り出す観光協会がふえていて、多くは組織強化を図り、お客を呼び稼ぐ組織を目指していますが、当市における観光協会と市との関わり、目標や戦略の共有、今後の組織のあり方や方向性などについて伺います。

(5) 観光ビジョン策定の提案について

糸魚川市の観光をより魅力的なものにするには、観光に関する将来の目標や方向性を見極め、ビジョンを示すことで、観光に対する市民の意識を高め、様々なプランやプロジェクトが上手く連携していくことが期待されると考えており、観光ビジョン策定を提案するがいかがか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、戦略プランの目標値で観光入込客数、フォッサマグナミュージアムの入館者数、首都圏での認知度、経済効果の点で目標を上回る効果となりましたが、宿泊数、来訪者の満足度の点では、目標を下回っております。今後の取り組みにつきましては、ユネスコの正式事業化となったこともあり、ジオパークの3要素である保護、保全、防災を含めた教育、地域振興を柱に次期ジオパーク戦略プロジェクトを策定いたしてまいります。

2点目につきましては、政府が掲げる「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、インバウンド観光に取り組むほか住民交流を意識した誘客活動を進め、インバウンド推進委員会とともに誘客受け入れ体制の整備に取り組んでまいります。

3点目につきましては、4月22日に日本版DMO候補法人として糸魚川市観光協会が登録されました。DMOの推進に当たっては、観光協会が候補法人となったことから、今以上に市、県、交通事業者など多様な連携機関と連携を強化し、交流人口拡大に取り組んでまいりたいと考えております。

4点目につきましては、財政的基盤、人的基盤という面では、まだ力不足と考えており、当面、運営体制の強化と人材育成の支援を行い、観光ワンストップサービスの窓口として、稼ぐ力をもってDMOの推進を図っていただきたいと考えております。

5点目につきましては、このたび当市を含めた広域観光周遊ルート形成計画が新たに観光庁から認定されたことを踏まえ、将来の観光戦略や目標を定め、糸魚川版DMOを展開する中で新たに観光ビジョンを策定したいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それでは、1番目のジオパーク戦略プランの成果と終了後の取り組みについてから2回目の質問をさせていただきます。

このジオパーク戦略プランでありますけども、作成に当たって当初からいろいろな議論がありまして、何とかまとまったというふうな印象があるわけですけども、その後、戦略プロジェクトが動いたことから、この戦略プランによる進め方を確認するというのも余りなかったんですけども、この戦略プロジェクトは、戦略プランの各項目に沿って進められてきておるのかどうかお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

おはようございます。

お答えします。

ジオパーク戦略プロジェクトにつきましては、戦略プランの理念、それから戦略の視点、これに基づいて進めております。総合計画でいえば戦略プランが基本構想、基本計画に当たり、戦略プロジェクトが実施計画に当たるといった形の中で捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

先日の全員協議会で総合計画の審議の際にも指摘があったわけではありますが、このジオパーク事業の取り扱いについて、もう少しめり張りをつけたほうがいいというふうに思うんです。全てに関係しているというふうなことから非常にインパクトが薄いというふうな指摘もあるわけですので、一番最後の5番目の質問事項で少し考えておるんですけども、糸魚川市全体の観光ビジョンがあって、その中にジオパークの観光に関する部分取り組みとして体系づけていくというような必要があるんじゃないかなというふうに、体系についてはそのように感じているんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在の戦略プロジェクトについては、非常に観光的視点が強い計画だというように認識しております。1つが受け入れ体制の整備であり、もう一つが情報発信と、まさに観光ということではありますが、市長が答弁しましたようにジオパーク事業がユネスコの正式プログラムになった中で保護・

保全、あるいは教育、そして観光振興と、こういう3つの柱が出てまいりました。ということで、より観光色よりもユネスコの事業を意識した計画にせざるを得ないというように考えています。そうした中で、やはり全体の観光ビジョンをつくる中でジオパークの計画が入り込んでくるという、議員ご指摘のとおりだというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今月の3日ですね、いわゆる越五の国、新幹線まちづくり推進上越広域連携会議、これを解散したということですね。こちらは43団体の加盟で、かなり強力なシフトを敷いておったんですが、効果ばかりでなく課題を残しての解散だということでもあります。このようにして期間を定め、集中的にやった結果として解散があったわけではありますが、ジオパーク事業ももう少し張りという点で、次のステップが必要だというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご指摘のとおりだというように思っております。世界認定を受けてから既に7年ほどたつわけですね。こうした中で、また新たな視点でジオパークを見直していくといった視点は大事だと思います。その中で、やはり住民の皆さんと一緒にジオパークをやっていく。そして、ふるさとに愛着と誇りを持っていく。こういった形に持っていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

とにかくこのジオパーク戦略プラン、これは平成28年3月31日で終了したわけではありますけども、プランですから、いわゆる中身を見ますと、行うというふうに宣言しているものも多いですし、また設置するというものや、あるいは配布するといったものも結構、中にあるわけですが、実際5年間でどの程度の成果を上げたものなのか、各項目にわたって検証しなければならないというふうに思ってるんですけども。報告書というのは、作成するつもりがあるのか。またいつごろ報告書を提出できるようになるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現段階では、いつまでといったことは明言できませんが、いずれにしましてもPDCAを回すこ

とは大切だと思っております。プランにつきましても、先ほど市長が答弁しましたように、基本目標の6項目のうち4項目で上回ったら2項目では下回ったといったことも含めまして、このプランがどうだったかという検証、そして報告といったものをまとめていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

このプラン作成時は、非常に多額な費用と時間をかけて作成しただけに、たしか1,200万以上、作成委託料にかかったというふうに記憶しとるんですが、やはり報告書にまとめて、我々議員だけじゃなくて関係者の手も、あるいは時間も煩わしてきておるわけですので、配布をしてきちっとした形にさせていただきたいんですが、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

事業実施につきましては、議員ご指摘のようにきちんとその成果を検証して、次の発展につなげていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今後に向けては、プロジェクトのほうはまだ進められるということなんですが、少なくとも一区切りということで、この検証に基づいて少なくとも今までの流れに一味も二味も加わったグレードアップしたもの、また非常にちょっと弱いと言われている24サイト、地域の方々の参画を促し、地域づくりの一助につながる進め方、これを期待したいと思うんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員ご指摘のように市民参画の部分で、まだまだ進めていかなければならないというように考えております。ご指摘の部分も踏まえる中で市民参画のしやすい、市民参画できるような体制づくりに進めていってもらいたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

一味も二味もという点では、十日町市と津南町で行われている大地の芸術祭、これは昨年度は入込客が期間中で51万690人、参加集落が110集落、参加作品が378作品ということです。文字通り大地を活用した祭典で、地域とうまくマッチしているということを考えますと、大地を生かすという点で糸魚川としても地域とジオパークを結びつける仕掛け、こういう方法をぜひとも考えていただきたいというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

十日町の大地の芸術祭につきましては、まさに大地と芸術をどうリンクさせていくかという取り組みだというように理解しております。ご指摘のように地域とジオパークをどう結びつけていくか、これがまた大きな課題になってくると思います。いずれにしましても地域の皆さんとジオパークがどうかかわっていくか、このあたりを中心に今後、進めなければいけないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

この十日町の大地の芸術祭、やはり専門家が企画をしとるんですね。コンサルタントじゃなく、実際に誘客にかかわってるJTB等が仕掛けをして、かなり成功しているというふうに聞いておりますので、ジオパークの生かし方につきましても自前ですること大いに結構ですが、そういう専門家のアドバイス等もいただいて、ぜひとも企画をしていただきたいというふうに思います。

それから、一昨年秋に国会議員による議員連盟ができたときに、自治体の財政支援制度を創設などを政府に求める方針で議員立法も視野に入れているというふうに聞いておりました、非常に期待をしておったんですが、現在、ジオパークによる地域活性化推進議員連盟、どんな様子でしょうか、市長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員連盟につきましては、先月、総会が開かれたところでありますが、今、与党の議員を中心に100名を超える衆議院、参議院の皆さんがいらっやっております。この中で議員連盟の会議の中では、各省庁の官僚の皆さんが出席されています。私どもの要望に対して文科省、あるいは外務省、国土交通省といったところが回答していただいているという状況であります。いずれにしましても、まち・ひと・しごとの地方創生の総合戦略の中にもジオパークという言葉が位置づけられて

おります。

また、地方創生の加速化交付金の中でもジオパークに関連した事業が多く採択されているという状況であります。いずれにしましても国がジオパークに対して財政的支援を前向きに検討いただいているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃってるように地方創生の中にジオパークが含まれているというふうなことで非常に私も期待しております。

次に、2番目のインバウンドに関してお聞きしたいと思うんですが、国が、ご承知のとおり現在2,000万人の外国人旅行客を2020年の東京オリンピックの年には倍の4,000万人にしたいというふうに言ってるわけですが、そのための体制整備も図ってるということですが、いろんな考え方はありますが、新幹線が停車する駅から山にも海にも近いというふうなことで、また外国と違った環境がたくさんあるわけでございますので、この条件を生かすには、やはりインバウンドの取り組みが必要だというふうに考えておるわけですが、もう少し踏み込んだ考え方を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

糸魚川市におきましても昨年度のインバウンド、宿泊の状況でありますけれども、一昨年に比べまして前年比約3倍程度の伸びを示しております。この中で今までスイス等ヨーロッパ中心だったお客さんが多く、アジア、台湾、中国、香港といったところから訪れていただけるようになっております。広い意味でいろんな外国からの誘客についていろんな角度から進めていきたいと。その中で民間がインバウンド推進委員会という機関を設けておりますが、ここを中心に展開してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

訪日外国人がここへきて急増しているというのは、円安という経済的な側面、最近はまだ円高傾向でございますが。それから、日本は少子高齢化でありますけれども、海外は、特に東南アジア、若者が非常に多いということと、日本の情報といいますが、テレビやITで日本のコンテンツが容易に見られる環境が整ったというふうなことで、日本への憧れ、これが非常に若者の中で大きいというふうなことです。ちなみに台湾は人口の1割の人たちが毎年、日本を訪れているというふうなことでありますので非常に驚きなんですけれども、我々が国内旅行をする感覚で台湾の方、それがお一

人が1回じゃなくて、お一人が何回という環境もあるかと思うんですが、それにしても非常に大きいわけです。

糸魚川市の外国人宿泊客ですけども、平成26年には246人というふうになっておりますが、この数字ですが、どのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

まだまだというような認識を持っております。こうした中でいかに東京、名古屋、大阪、京都といったゴールデンルートから北陸新幹線開業を契機にどう日本海側に持ってくるか、その中で長野、糸魚川、上越、それから金沢と富山といったところが連携する中で、こちらにお客が来るような取り組みを進めていかなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

上越地域でも平成26年度は、外国人の宿泊者数が3万人を超えている。前年対比40%の伸びということなんですが、当然この中に糸魚川市の246人も含まれておるわけですが、そうなりますと上越市、妙高市はかなり多いわけです。既に集客の手を打っているというふうなことなのかどうか、その辺の情報というのは入っておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

上越地域の、今ご指摘のとおり約3万人を超えておりますが、うち妙高市が2万8,000人ということで多くの集客をしております。残りの差が2,456になるかと思えます。これを上越市と糸魚川市が分け合うという形です。

妙高市につきましては、オーストラリア人が多く来ているわけでありまして。今後、こうしたオーストラリアのお客さんをどう呼び込んでいくか。その中でやっぱり妙高市なり、それから白馬にも今7万7,000程度のお客が来ておりますが、このお客をどう呼び込んでいくかということが課題だというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、データの的にも課長がおっしゃるとおり妙高市の場合は、オーストラリア、シンガポール、韓

国、フィンランド、この順なんです。今後ということでお聞きしたいと思うんですけども、地方創生の総合戦略の中の交流人口の拡大の中で、世界国内の情報発信、受け入れ体制の整備、この項目を掲げておまして、外国人の宿泊者数の目標値3,000人なんですけど、この3,000人の具体策というのはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

インバウンド推進委員会のほうが、市内の10ほどの宿泊施設を対象に去年何人泊まったかという調査をしております。その数字が1,416人というように伺っております。3,000人というところまでは、まだ半分でありますけども、一昨年に比べまして3倍以上ふえているということでありますので、よりターゲットに対してきちんとした戦略を打つ中で誘客に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

最近、入込客数とか宿泊者数よりも経済効果の話、これが大事だというふうなことなんですけど、ここで国の試算です。定住人口1人分の年間消費額は125万円として、定住人口1人減少分は外国人旅行者ということになると9人分でその減少分を補えるというふうに言ってるんですね。それから、国内旅行者宿泊だと27人分、日帰りですと84人分といいますから、やはりここはインバウンドも貴重な経済効果につながるというふうに考えておるわけで、しっかりした戦略が必要だというふうに思うんですけど、先ほども答弁がありましたけど、戦略という点についてもう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、国別によってさまざまに嗜好等が違いますので、ターゲットを絞る中でターゲットに対する的確な対応が必要だというふうに考えております。その上で2本の大きな柱があると思います。外国人観光客が個人で満喫できる糸魚川、これはいわゆる受け入れ体制をどう整備するかということとあります。

もう一つは、外国人観光客が糸魚川に行ってみたいという情報発信、この2本を柱にしながらターゲットに対する的確な誘客活動を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

外国人旅行誘客ということになりますと円安・円高の問題とか、あるいはコミュニケーションの問題もあるわけでリスクもあるわけですが、国内旅行が非常に減少傾向という中で外国人旅行客が前年対比 47% 増というふうな現実を見ますと、やはり対応せざるを得ないわけですし、力を入れなきゃならない。

ただ、国内旅行客と違いますので、観光協会にその対応を任すというようなやり方じゃ非常にうまくないんじゃないかなというふうに思うんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの答弁の中でインバウンド推進委員会が中心にというお話をさせていただきましたが、ここは観光協会はもちろんですが、県の地域振興局、商工会議所、あるいは糸魚川市、さらに宿泊施設等も入った中で、今、展開をしております。ですので観光協会に任せるということでなくて、皆さんが連携する中でやっていかなければならないというように考えております。市としましても、例えば指さし会話帳等につきましては、糸魚川市が製作する中で皆さんの食堂等を含めたワークショップを開くなど推進委員会の力もお借りする中で、今、展開をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

そうであれば幸いなんですけど、観光協会の事業計画、今年度の事業計画を見ますとインバウンド推進事業費が 20 万円計上されてると。そうすると市のほうでこれらに、インバウンドに対応するために予算的な措置というのは、どのように考えているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

今、ご指摘のインバウンド推進委員会ですが、観光協会からの 20 万も含めまして地域振興局が 20 万、糸魚川市が 20 万、商工会議所が 20 万といった形で資金を出す中で総事業費 100 万円程度でやっております。

ということで観光協会もお金を出しておりますが、ほかの関係機関も連携する中で、この取り組みを進めているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

3月の予算審査特別委員会でも多少、持論を申し上げさせていただいたんですが、ここへ来て、以前、観光庁の観光産業課長をされておりました、現在、新潟県の副知事の寺田さんから3回ほどお話をお聞きした中に、最近の観光の動向という中で、このインバウンドに関しては大きく扉を開かなければいけないというふうなお話をお聞きしておるんですが、糸魚川市としては、少し苦手な分野かもしれませんが、米田市長は3月に経験がなくちゅうちょしていたが、必要だというふうなご発言をいただいておりますが、市長、インバウンドについてはどういう認識を持っておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりおいでいただいた方々に楽しんでいただいて、来てよかったという印象を持って帰っていただくことが一番大切であるわけでありまして、その辺をしっかりとつながらないと思っておるわけでありまして、その辺はまだまだ我々が整備足りなかったと思っております、それを進める中において、ジオパークあたりも非常に大きな1つの効果が出てくるのではないかな。ある資源とそれをソフト的な部分と合わせること、そしてインバウンドにつきましても、今我々は後発的な地域でございますので、先進地域とやっぱり連携をとっていきたいということで北アルプス日本海広域観光連携会議の皆様方とも今、連携をとらせていただきたいという考えでありますし、また、今我々が進めておるジオパークの中で、顔と顔と見える中で、やはりただ単に行って、糸魚川市を宣伝してもなかなか振り返ってはくれないだろうという形の中では、顔の見える方々の中で何とかおいでいただきたいというPRをさせていただきたいという、そういう2点で進めていきたいと考えておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

そうですね、いろいろあるわけでありまして、案ずるより産むがやすしということもありまして、外国人旅行者の反応としては、日本の布団で寝るのは一番よかったというふうなこととか、自動販売機、それからトイレのウォシュレットなどに驚いたというふうなことを言ってるわけで、それから何と言っても治安が世界一というふうに評価をしておることから、おもてなしをしっかりとすれば、ほぼ平常心で対応できるんじゃないかなというふうな考え方も成り立つわけでありまして。

また、それからインバウンドの話の際に、青年会議所の皆さんの取り組みもあったわけですが、こちらの方とは今後どんな関係を持ってインバウンドに向けていくお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

青年会議所の皆さんにつきましては、ことしの1月6日から2月11日まで糸魚川シーフードシャトルバスの運行を担っていただきました。これにつきましては、市また地域振興局が資金的な援助もする中で営業活動等にも合わせて一緒にやってきました。今年度につきましてもＪＣになるか、あるいはＪＣの出身者の団体になるか、このあたりはまだ不明確でありますけども、同じような取り組みをしたいということでございますので、県、市いずれも力を合わせてインバウンドの推進、進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから、国も県もこのインバウンドに関して奨励をしとるわけでありまして、そうすれば、国、県の事業というふうな形で具体的にインバウンドを指してるような事業というのはあるのか。また、何か市として、それに対して検討しているのかどうかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

国におきましても先週でありますけども、広域観光周遊ルート形成計画というもののの中で、糸魚川を含む東京回廊というところが指定を受けております。これは何をするかといいますと、基本的に議員ご指摘のインバウンド観光をどう進めていくかということでありまして。こうした中で糸魚川という名前が、その計画の中にしっかりと位置づけられております。こういった制度を活用する中でインバウンド観光を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この近くでは、インバウンドの先進地になるわけですが、妙高市では、国が観光地魅力創造事業、この事業で地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げるというふうなことで取り組みをしているというふうなことでございます。

次に、3番目の糸魚川版のDMOの取り組みについて伺いたいと思うんですが、先ほどのお話で、糸魚川市の観光協会が候補法人に登録されたというわけでありまして、先般、5月31日の糸魚川市観光協会の総会で、ことしの事業計画に具体的に示されておりませんし、このDMOそのものが観光協会員、また観光関連業者にもよく伝わっていないというふうに思うんですが、今現在の状況として、これでいいのかどうかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

DMOの今の状況につきましては、議員ご指摘のとおりであります。DMOの一番の大きな3本の柱のうちの1つが、関係者の巻き込みをいかに進めていくかということであり、このあたりはまだ不十分でありますので、観光協会と連携しながら市が積極的に参画・連携する中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今までの国内のほとんどの観光は、行政、観光協会、観光事業者、この3者で行われてきたわけですが、平成13年ころをピークに、糸魚川市においても観光振興がなかなか成果が上がらないというふうになってきておるんですが、従来型の観光振興の反省からDMOの導入が有効だというふうに聞いておるんですが、この従来型の観光振興の問題点というのは、一つ二つ挙げるとしたらどんなことなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

3つあるかと思っております。先ほど申し上げましたように関係者の巻き込みが不十分であること、2つ目がデータの収集・分析が不十分であること、3つ目が民間的手法の導入が不十分であるという3つだったというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今度のDMOの目標というのは、わかりやすく我々の感じるところでは、地域主導に切りかえていくと。多くのお客様に来ていただくことによって、例えば若者が町から出ていなくても済むように働く場所をつくろうと。また、その目標達成のために着地型観光商品、あるいは特産物をつくって販売するといった観光振興と地域振興が合わさった取り組み、これを盛んにしたいということですね。単なる経済活動じゃなくて地域づくり、まちづくり、これにつなげようということなんです。そのためには先ほどのお話、課長ありましたマネジメントとマーケティングの機能が大切だというふうに聞いておるんですが、この辺先ほども大切だというお話なんです。具体的にマネジメント、マーケティングについてどのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

DMOの「M」は、議員ご指摘のとおりマーケティングとマネジメントであります。ここあたりが観光協会においても一番の課題だというように考えております。どうマーケティング、マネジメントを進めていくか、その体制を強化するべく観光庁の支援事業、あるいは民間からのご意見等を踏まえる中で取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この糸魚川版のDMOを仕掛けるには、まず従来型の観光振興、すなわち組織、人材、資金などを含めた推進体制の現状と課題、これをやっぱり認識して総括しないとなかなか次へつながらないと思うんです。今度のDMOは観光振興といいますけども地域振興になるわけです。

したがって、この観光協会がDMOの登録法人でいいのかどうかという点です。妙高市は、協議会を設立して18の団体、企業と市の観光商工課で組織して世界レベルの観光地を目指すということなんですが、妙高市の場合、事務局は行政なんですけども、当市の場合は観光協会ですらいいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、DMOに候補法人として登録されている団体が全国で81ございます。この状況を見ながら観光協会というところを母体にしてるところが比較的多いという状況であります。観光庁のほうでは、新たな法人を設立した場合、既存の観光協会との情報交換とかがなかなかうまくいかない部分もあるよと、こんなご指摘もいただいております。基本的には、糸魚川市観光協会を母体にしていかなければならないと思いますけども、議員ご指摘の部分、いわゆる今の観光協会の状況でいいかという部分については、市長が答弁しましたように、まだ力不足というように考えております。市が積極的に、この糸魚川市観光協会のDMOの中で積極的な参画と連携を進める中で進めていかなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

妙高市は、参考までに今年度のDMOの事業計画で顧客管理システムの導入を始め、組織体制の

確立、予算は総額で1億660万円でスタートしたということを聞いておりますし、また、その要の事務局長には、東京でアウトドア情報関連サイトを運営する方が就任したというふうなことをお聞きしております。

これから、このDMOとかインバウンドの取り組みの方法で地域間格差がもうどんどんついてくるんじゃないかと思うんですが、今の観光協会が各種団体とか各機関を取りまとめて企画をして、国、県、市、連携できる体質になってるかどうかと、私、非常に心配をしておるんです。ここは行政が真正面から取り組んで判断を間違えないようにしていただきたいというふうに思うんですが、特に産学官金労言をまとめたチーム系魚川的な取り組みが必要になってくるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まさに議員ご指摘のとおりのもので新しい組織には必要だというように考えております。この中でやはり地域、皆さんを巻き込む中でまさにチーム系魚川の考えもとの観光地域づくりをやっていかなければならないというように考えております。その中で観光庁が、地方公共団体には日本版DMOへの積極的な参画と連携というものを求めております。私どももこれまで以上に観光協会に対して参画と連携をしてみたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

このことについては、次の項目でもお話ししたいと思いますので、次の項目に移りたいと思うんですが、4番目です。

今まで観光協会は、観光事業関係者である会員が会費を出し合って、そして行政の補助金をもとに地域の振興のためにPR活動とかイベントの実施、また案内所の運営等を行うというふうな役割を担ってきたわけですが、ここへ来て、こうした従来の観光協会の役割に加えて観光地経営という踏み込んだ運営が求められてきておるんですが、系魚川市の観光協会の実情をどのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

現状では運営体制の強化、運営体制についても問題があるというように考えておりますし、人材育成についてもまだまだといった部分がございます。こういったことから運営体制の強化と人材育成の支援を市が積極的にかかわってまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

特に、この観光地経営といった点で、近くでは飯田市の南信州観光公社、それから飯山市のいいやま観光局、いち早くこの観光地経営を手がけて成功事例として評価を受けておるんですが、今後、このような形態に持っていこうというお考えなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

DMOの設立の段階で観光庁の考え方の中で、やはりいいやま観光局といった事例も1つのモデルケースとして提案されております。こういったことから、そういった組織等を参考にしながら新しい観光協会と申しますかDMOの取り組みを進めていかなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

現在、任意団体の系魚川市観光協会、これを一般社団法人にするというふうなことで手を挙げたわけですが、どんな理由から法人化するのか、また、この法人化に当たって観光協会内部から法人化を目指す議論があつてのことかどうかわかりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、法人化のメリットでありますけれども、先ほどのDMOに対してもそうなんですが、国の補助金の受け皿として法人格というのは求められております。

また、契約締結等における権利義務関係の明確化、さらに責任者が明確となるといった最低限のガバナンスの仕組みが担保されるといったところが法人化のメリットだということに考えております。協会内部では、いろんな法人化に向けた議論、まだ早いんじゃないか、あるいはまだ十分でないかといった議論もありますけれども、DMOの場合、法人格をとることが必要最低条件になっておりますので、法人格をとるよう進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

法人化することによりまして各種の事業を取り込んだり、また権利義務が明確になるといったこともわかるんですけども、現在の体制の中で、その取り組みができるのかどうか。もう一つは、どんな手順で発足させようとしてるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

法人化につきましては、やはり今の観光協会の中では、なかなか力不足の部分もあるかと思えます。こうした中で、市も積極的な関与をする中で法人化に向けた取り組みを進めてまいりたいと思います。

また、法人化取得に当たりましては、協会内部のきちんとしたコンセンサスをとるように指導してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

現在、糸魚川市観光協会は市からの補助と委託、平成28年度予算では4,487万9,000円の支出予定、この額は観光協会の予算総額の8.3%。補助と委託に関する費用の算出、これはどのようにしているのか。

また、役員に市の関係者が名前を連ねていないんですけども、この事業計画とか運営に関してどのようなかわりを現在、持っているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

昨年度まで観光協会に対する支出、運営費等を含めて負担金という形にさせていただいておりましたが、今年度から補助金という形にさせていただいております。この中で観光協会の運営に係る経費の4分の3以内、また観光協会が市の振興を図るために行う事業に係る経費の4分の3以内ということで補助金を支出したいというように考えております。こうした中で、明瞭化する中できちんとチェック体制を敷く中で、補助金の支出に努めてまいりたいというように考えております。

それから今後でありますけども、今後といいますかこの補助金の支出に伴いまして、これまで市の職員、具体的には産業部長であります、理事会の理事ということで入っておりますが、補助金という形の中で理事から外れて今あります。

しかしながら、各会議につきましては、うちの職員がオブザーバーと、出席する中で連携を深めてまいりたいというように思っておりますし、協会内部に入らなくても、今、毎日のように協会と

情報交換をしております。こういった取り組みを進める中で、観光協会と連携した取り組みを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この法人化は実践事業といいますか収益事業も活発に行って、自立に向けた組織に変革をするというのは最も大きい理由になるわけですが、先ほどの飯田市さんなんかの場合は、補助金なしで黒字化、配当も出しているということです。当市の場合、市からの補助委託の83%、先ほどちょっと課長答弁あったのかもしれませんが、今後どのぐらいの比率まで段階的に持っていきたいのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

現段階では、明確にどこまでといった数字はお示しできませんけども、観光協会が着地型観光商品をつくったりする中で、稼ぐ観光協会であってほしいという思いであります。いずれにしましても、そうした取り組みの中で市の支出が減らせるよう努力してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

課題はいろいろあるわけですが、1つ具体的なことでお聞きしたいんですが、案内所についてです。系魚川駅の北口とアルプス口の2カ所に設置されておるんですが、この経費合わせて市からの委託で900万円、窓口の扱い件数が両方合わせて1万7,727件、マリンドリームの案内所が委託費150万円で、窓口の扱い件数が9,403件、これ1年間やってみてどのように感じておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

マリンドリーム能生と親不知のピアパークに、今、観光案内所を設けておりますが、まさにこれは道の駅、車で来られる方の玄関口、その案内だというように考えております。アルプス口と日本海口につきましては、北陸新幹線なりJR、鉄道を使った観光のインフォメーションであり、鉄道の核施設というように考えております。件数につきましては、倍とまではいきませんが多くの方から利用されています。いずれにしましても、こういった利用状況を踏まえる中で、案内所等の

運営について考えていかなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

糸魚川駅の案内の件数が少ないというのは、案内所の位置がわかりづらいといった問題もあるんじゃないかと思うんです。実際に声はあるんです。改札を出たらすぐに案内ができる。まずは簡易なもので結構ですからわかりやすい通路の一部分に一時案内、そして具体的複雑なもの、時間がかかるものについては、観光協会の案内所へ誘導するというような仕組みがとれば、この2カ所の見直し、経費節減、これらもつながりますし、また、より節減した上に機能的になるというふう思うんですが、その辺についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現行の、いわゆる自由通路の中の案内所ということにつきましては、検討する中で通路ということとでなかなか難しいということで、今のジオパルとひすい王国館と案内になったということであり

ます。ご指摘のなかなかわかりにくい部分というのは開業時からありまして、これにつきましては、自由通路の表示を変えることによって対応させていただいております。

今後でありますけども、この状況を見る中で対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、表示とおっしゃいましたが、表示非常に小さいし、わかりづらいし、これではなかなかまずいというふうに思います。行政でももっと観光協会の機能と人材配置、それから目標について議論をしていただき、見直しを図っていただきたいというふうに思っております。

次に5番目の観光ビジョンの策定に関してでありますけども、このジオパーク、新幹線駅開業というプラス面を経験してもなかなか思うようにいかないわけでありまして。この厳しい現実を経験する中で、私はやはり当市の観光全体の方向性、それから各機関や業者、市民の役割を整理したビジョンの必要性というもの、それから、政策とか実態をまとめた糸魚川版の観光白書、これを作成して、特にきょう観光ビジョンについては、作成をしたいということでありまして、どのような進め方で考えてるのかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

今、DMOを進めているわけですが、DMOを進める中ではデータに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の整備することが求められております。こうしたことから、議員おっしゃるよう観光に対する市民の意識を高めるといった視点からも今の観光戦略を住民の皆さんと一緒に進めてまいりたいと。いずれにしましてもDMOの展開を図る中で、この観光ビジョンを策定してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるとおり、この辺で観光の考え方をきちっと整理をしていただきたいというふうなことを思います。この観光ビジョンの作成の必要性については、何回か一般質問させていただいております。19年12月には検討したいと。それから23年の12月には考えていないという答弁があったわけですが、このときは観光協会3支部の合併問題が絡まっている時期でもありましたので仕方がないかというふうな思いもありましたが、合併も済みまし、新たな局面と考えておりますので、ぜひ作成したいということですのでお願いをしたいと思います。

それから、観光の体系がきちっと整備されていなければ各機関が動かないということがよくわかるわけでありますので、特にまだまだ協働といった理念が浸透して定着していないというふうに感ずる局面がいろんなところであるわけでありますので、これが観光、観光と言っても直接利益につながる塊だけの動きになってしまっは困るんで、この辺のところを特に盛り込んだビジョンにさせていただきたいと思うんですが、市長、観光についていろいろ造詣あるんですが、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のように、やはり観光が我々の自然を生かす最大の事柄になるうかと思うわけでございますので、そういった自然と、そしてまた我々がここに住んで、住み続けてきた文化というものも合わせながら適応していくことが大切であるわけであります。そのようなことで今、合併をし、今やっと一体感を持って動き始めているわけでありますが、ご指摘のとおりまだまだ問題・課題がございます。その辺を今の糸魚川版のDMOの中で、そしてビジョンをしっかりとつくって観光協会と一体となって進めていかななくては行けないと、私、思っている次第でございますので、体制も全く同じだと思っております。その辺をしっかりと現状とそういった課題を把握しながら進めていきたいと、私、思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

いろいろ申し上げさせていただきましたが、最後に糸魚川市の観光は、糸魚川市の光になっているのかどうかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まだまだその辺は、まだまだたくさんの光ってない部分がございます。やはり私は、レベルの高いものがあると思っているわけでございますので、そういったところをこれから皆さんにお示しながら国内のみならず世界にその辺を呼びかけていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

それじゃあ、ありがとうございました。よろしく願いいたします。

議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、権現荘の現状と課題、今後について、北陸新幹線の騒音・振動公害について、米田市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

1、権現荘の現状と課題、今後について。

- (1) 権現荘の始まりは、取り壊した本館・能生自然教育センターにあると思うが、行政目的のための存在意義をどのように考えているか。
- (2) 権現荘の経営悪化後、市は平成21年4月から民間より支配人を採用したが、権現荘に対するどのような考えをもって採用したのか。また、新支配人とはどのような内容で契約されたのか。
- (3) 平成22年3月31日付けで、糸魚川市第三セクター等の評価及びあり方に関する報告が、3人の専門家から構成される糸魚川市第三セクター等経営検討委員会から出された。対象は、当時の「株式会社親不知企画」、「株式会社能生町観光物産センター」、「火打山麓振興株式会社」、「柵口温泉権現荘」の4つの法人等である。

報告中、糸魚川市の第三セクター等のあるべき姿の項で、最も大事な点は、「行政目的の